

第9回 飯田市藤本四八写真文化賞 選考結果

審査日 平成26年2月17日(月) 10:00~12:00
審査会場 キヤノンマーケティングジャパン本社9階会議室
審査員 田沼武能 先生 (写真家、日本写真家協会会長)
福島義雄 先生 (写真編集者)
内山 節 先生 (哲学者、立教大学大学院教授)
水谷章人 先生 (写真家、日本スポーツプレス協会会長)
伊澤宏爾 (飯田市教育長)
滝沢具幸 (飯田市美術博物館館長)

■推薦の部「藤本四八写真文化賞」

受賞者 齋藤康一 氏 (78歳/写真家)

略歴 1935年、東京都生まれ。1959年、日本大学芸術学部写真学科卒業。在学中より林忠彦、秋山庄太郎氏の助手を務め、その後フリーランスに。週刊誌・月刊誌等に数多くの人物写真やルポルタージュを発表している。日本写真協会名誉会員。日本写真協会監事。写真集は、『昭和の肖像』（玉川大学出版部 2007年）、『写真家たちの肖像—先輩・後輩・仲間たち』（日本写真企画 2013）ほか多数。受賞歴は、第7回講談社出版文化賞（1976年）、日本写真協会賞年度賞（1988年）ほか。

選考理由 齋藤康一さんは若き日より人物写真一筋に撮り続けてきた肖像写真の第一人者である。そのポートレートは俳優、作家、画家、映画監督、建築家、写真家など各界の著名人におよぶ。作品の記録性は貴重であると同時に、厚みのある「昭和の肖像」としての価値が評される。彼が収めた飯田出身の藤本四八をはじめとする肖像作品群は、高く評価すべきであり、藤本四八写真文化賞に値する。

■公募の部「藤本四八写真賞」

受賞者 佐藤信一 氏 (65歳/写真家)

作品名 「田んぼ」 (組写真 10点)

選考理由 素敵な農村文化をとらえ、山村の生活をうまく取り入れてストーリー性のある組写真に仕立てている。左義長から始めて、田植えがあって皆が集まる。刈った後の田んぼでは幼稚園児がお食事会を開いている。組写真の場合はシチュエーションがないと同じような写真になってしまうが、場面を変えて大変うまくまとめている。メントとして形作られたわざとらしさが残ってしまう点は残念である。人間の生活をアップした写真があれば、田んぼを取り巻く世界のリアリティー、メッセージ性が生まれ、さらに輝いてくと思う。